

録風天

今から100年前のインフルエンザを「スペイン風邪」と呼んだ。世界で流行したのに、なぜ。この国が情報統制をしなかったためだという。感染症の専門家山本太郎さんの著書「新型インフルエンザ」から引く▲第1次大戦の渦中のことだった。兵士が勇ましい戦闘ではなく、それこそ「西部戦線」の塹壕で病にたおれていく。参戦国は自国民には隠蔽したい惨事だったのだろう。逆に、発症を隠す必要のない中立国スペインには、迷惑この上ない命名だった▲このように誤解を招く命名は今では正されている。中国・

武漢から広がる感染症は「新型コロナウイルスによる肺炎」。ところが、情報公開となると▲中国は当初、市民のパニックの方を恐れ、NHK海外放送のニュースは突如、中断する。さすがに、日本やタイに感染者がいるのに武漢以外は公表しないのか、という声に理がある。その後、北京や上海などでの発症が伝えられ「人から人への感染」を公言する専門家も出てきた▲1960年代、「感染症の教科書を閉じる時が来た」と米国高官が演説したそう。夢を見たのだろう。どの国も情報を出し惜しみせず、感染症の拡大を阻む知恵を出すことである。